

事業計画書

事業名	沼津の海を世界一キレイに！ 海ゴミアートを活用したゴミ問題の啓発活動
実施場所	沼津市内のイベントスペース等
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載してください。 令和8年 9月 15日 ～ 令和9年 3月 31日

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載してください（事業の紹介などで使用します）。

海洋ゴミ問題をテーマとしたイベント(ワークショップや展示会)を開催。

楽しみながらゴミ問題に触れる機会を作り、地域をきれいにしたいという意識の醸成、適切なゴミの処分(分別・リサイクル)の意識の向上等を図る。

◎目的

※事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）と、その解決のために何をするのかを記載してください。

【背景】

昨今、世界中で『海洋ゴミ問題』が深刻化しており、2050年には海に流れ出たプラスチックごみの総重量が、海で生活している魚たちの総重量を上回るともいわれている。

本問題は、漁業やマリンレジャーが盛んな沼津市にとって他人事ではない。

沼津の海は、富士山から注ぐ湧水や、駿河湾の深くから湧き上がってくる海洋深層水により、『水質が日本一きれいなビーチ』とも言われている。

しかし、そんな『日本一のビーチ』も漂着ゴミであふれてしまっている。

あわしまマリンパークの周辺にも、日々多くの漂流ゴミが流れてきており、回収してもきりが無い状態となっている。

飼育している生き物が、流れてきたゴミを誤飲してしまい体調を崩すといった事例も発生している。

海洋ゴミ問題は、沼津市でも非常に深刻な問題となっている。

海洋ゴミは、景観への悪影響だけでなく、観光業／漁業等への経済的な影響、船舶航行の阻害、マイクロプラスチックによる健康被害の懸念など、多くの問題を引き起こす原因となる。

本問題は、徐々に知られるようになってきてはいるが、まだまだ認知が浅い。

海洋ゴミの大半は、町から出たゴミ＝適切に処理されず流出してしまったゴミが原因と考えられており、元を辿れば私たちの日常生活の中でのゴミに対する考え方に帰結する。

海洋ゴミ問題の対策には、私たちのゴミに対する意識の強化(ものを大切に使う・分別やリサイクルの徹底など)が必須である。

海洋ゴミ問題対策 = 私たちのゴミ問題への意識の向上 ⇒ 街をキレイにすることにもつながる。

そこで、『海洋ゴミ問題』に関するイベント(ワークショップ・展示会など)を行うことで、楽しみながらゴミ問題に触れられる機会を作り、地域をきれいにしたいという意識の醸成、適切なゴミの処分(分別・リサイクル)の意識の向上等を図りたい。

私は、『海』は『沼津の誇り』であると思う。

古来より海と共に歩んできた沼津の人にこそ、本問題に興味を持ってほしいし、そのきっかけを作りたい。

【実施内容】

海洋ゴミ問題の啓発活動の一つとして、海洋ゴミを素材とした工作『海ゴミアート』という分野がある。

私も海洋ゴミ問題の啓発活動を目的とし、海洋ゴミから海洋生物を作っているのだが、現状 SNS にアップしたり、市内の施設に問題啓発のチラシを置かせていただいているだけとなっている。

しかしそれだけでは、問題啓発の機会として不十分であるため、リアルで問題に触れながら楽しく学ぶことができるイベントを開催したいと考えている。

そこで市内のイベントスペースなど、多くの方の目に触れることができる場所で、海洋ゴミに関するイベントを実施する。

【イベント内容】

- ・海洋ゴミを使用したワークショップ
- ・企画展(海洋ゴミでつくった水族館)
 - ・海ゴミアートの展示
 - ・ポスター展示（海洋ゴミ問題とは／ゴミの分別・リサイクル方法に関して）
- ・チラシの配布（海洋ゴミ問題とは／ゴミの分別・リサイクル方法に関して）
- ・市内のビーチクリーニング活動の紹介 など

【ワークショップ】

『①マイクロプラスチックを集めてみよう！』 ※別紙 1 参照

砂の中からマイクロプラスチックを探し、小瓶やキーホルダーに入れて、アクセサリを作る
マイクロプラスチックだけでなく、小さい貝殻やシーグラスも混ぜ、宝探し感覚で楽しんでもらう。

ゴミ拾いを疑似体験することで、実際に海に行った時に、『あっ、マイクロプラスチックだ！』と、
落ちているゴミを認識できるように＝問題を問題と認識できるようになることが狙い。

『②海洋ゴミからキーホルダーをつくろう！』 ※別紙 2 参照

海から拾ってきたペットボトルキャップを使用して、ストラップを作成。

廃材を使用することで、ゴミを価値のあるものに生まれ変わらせるアップサイクル体験をしてもらう。

『ゴミをゴミにしない方法』を考えるきっかけにしたい。

【企画展】 ※別紙 3,4 参照

展示パネルと、実際の海洋ゴミ／海洋ゴミから作った海洋生物『海ゴミアート』を展示

展示パネル(ポスター)

- ・海洋ゴミ問題って？
- ・どこから来るの？
- ・なんで問題なの？
- ・私たちにできる事
- ・沼津市のゴミの分別／リサイクル方法に関して など

海ゴミアートの展示

文字だけだと興味を持ってもらいづらいので、海洋ゴミから作った海洋生物『海ゴミアート』を展示し、興味を引けるように工夫。

実際に沼津の海(千本浜がメイン)で拾った海洋ゴミから作成しており、各所に洗濯バサミや歯ブラシなど身近なゴミを配置している。⇒海洋ゴミ問題＝身近な問題と感じてもらうのが目的

本イベントの目的は、『海洋ゴミ問題』について知ってもらい、地域をきれいにしたいという意識の醸成、適切なゴミの処分(分別・リサイクル)の意識の向上等を図ることである。

また私は『海ゴミアート』は、社会貢献(清掃活動)をしながら、無料で素材を手に入れることができる、非常に面白い分野であると考えている。

海ゴミアートの作成は、まずビーチクリーニングがスタートとなる。

そして、海洋ゴミから作成している＝環境問題対策でもあることから、話題になりやすく、海洋問題の啓発にはもってこいである。

つまり、海ゴミアートを作成する人が増えれば、自ずとビーチがキレイになり、作品発表を通じて、海洋問題の啓発活動も行われるのである。

海ゴミアートは、テーマ上注目されやすいこともあり、アートイベントとして地域おこしに利用されることもある。

本活動を通じて海ゴミアートに興味を持つ方が増え、そしてその方々から活動の輪が広がっていくと嬉しく思う。

【ビーチクリーニング】

ビーチクリーニングイベントを開催

実際に海に行って現実を体験してもらう。

自分たちでキレイにしたという達成感は、日々の暮らしの中でのゴミ問題への意識を高めるきっかけになると考える。

月の第1〇曜日に開催といった形で、定期的な開催とする。

地域の方や、好きで来てくれている方たちの交流の場や、健康づくりの運動の場にもなると考える。

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載してください。 ※ハード部門については、12月31日までに施設整備を終え、その後は施設を活用する計画としてください。

R8 9 月	【開催準備】 ○ポスターチラシの準備 ・デザイン ・発注 ○ワークショップの準備 ・資材発注 ○会場確保 ・商業施設(イベントスペース) ・道の駅 ・地元水族館 ・マルシェなどの地元イベント ○ボランティア団体へ連絡 ・取材 ・活動紹介ポスター作製 ○備品の発注 ○告知 ・SNS ・チラシ配布
9/19～10/19	○第1回開催 ・あわしまリパーク ○フィードバック ・参加者の声、アンケート結果を踏まえ、軌道修正
R8 10～11 月	○第2回目開催 ・沼津港大型展望水門 びゅうお 様
R8 12 月～R9 1 月	○第3回目開催 ・道の駅 くるら戸田 様
R9 1 月～ 3 月	※日程、会場、予算の都合が続く限り、 期間内に1日でも多く開催
R9 3 月	まとめ ・報告書作成 ・今後に向けての準備

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載してください。 ・地域をきれいにしたいという意識の醸成 ・適切なゴミの処分（分別・リサイクル）の意識の向上 ・市内のビーチクリーニング活動等、清掃活動への参加の促進			
成果指標	※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定してください。 ・イベント来場者数 ・ワークショップイベント参加者数 ・チラシ配布枚数	指標の 検証方法	※左記指標の検証方法を記載してください。 ・来場者数／参加者数のカウント ・来場者／参加者へのアンケート

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

社会的 必要性	※まちの活性化や魅力づくりのために有益であり、不特定多数の利益につながる質の高い事業であるか。 昨今、海洋ゴミ問題は深刻化しており、漁業やマリンレジャーが盛んな沼津市にとっても他人事ではない。 海洋ゴミは、単純な景観への悪影響だけでなく、観光業／漁業等への経済的な影響、船舶航行の阻害、マイクロプラスチックによる健康被害の懸念など、多くの問題を引き起こす原因となる。 海洋ゴミ問題と聞くと、どこか遠い世界の話の様に感じてしまうかもしれないが、海洋ゴミの大半は、適切に処理されず町から流れ出たゴミであるため、海洋ゴミ問題は元を辿れば私たちのゴミに対する考え方に帰結する。 ポイ捨てをしない、ものを大切にゴミを減らす、適切なごみ処理の徹底など、1人1人の小さな積み重ねが、海だけでなく街をキレイにすることにもつながる。 また、必要であると分かっているだけでも、ゴミの分別やリサイクルは難解な場合もあり、億劫になってしまう人もいる。 ゴミ問題＝面倒な問題なのである。 そこで、楽しみながらゴミ問題に触れることで、 日常生活の中のふとした瞬間に思いだして、少しでもゴミを減らそう、分別/リサイクルを意識してみようと思ってもらえるようなきっかけを作る。
地域性	※地域課題の解決や地域資源の活用につながり、地域住民を巻き込めるか。 度々SNSで話題になっているため『沼津のビーチの水質は日本一キレイである』ということを知っている方は多いと思われるが、その日本一のビーチが多くのゴミであふれてしまっているという事実を知っている方は、そう多くない。 実際海に行って、ビーチに広がるゴミの山を見ても、大半の人はなんとも思わないのが現実である。<u>海にゴミがあることが当たり前になってしまっている。</u> 沼津は、漁業やマリンレジャーと共に発展してきた街でもある。 海は沼津の誇りであると考え。 だからこそ、『海がゴミであふれている景色を当たり前にしたくない』 沼津に暮らす方々にこそ、そう思っていたきたい。 ゴミ問題は、私たちみんなの問題であり、市民一人一人が意識することが大切である。本イベントは、そのきっかけになると考える。 また沼津市内でも、精力的にビーチクリーニング活動を行っている団体がいくつかあるが、そういった活動はあまり知られていなかったりする。 市内のボランティア団体と連携し、ビーチクリーニング活動の紹介や、活動報告の場を作ることで、 キレイなことは当たり前ではなくて、日々活動している方がいるということを知ってもらう機会を作り、市内でのビーチクリーニング活動等の清掃活動への参加を促すきっかけにする。

独創性	※申請者ならではの着眼点や個性が見られ、新規性、チャレンジ性があるか。 海洋ゴミ問題の対応策・啓発活動として、『ビーチクリーニング活動』が行われている。しかしビーチクリーニング活動は、興味がある人は参加するし、「活動を行いました！」という報告を目にすると「おっ！」と思うかもしれないが、大多数の人はどこか他人事のように思っていると考え、ただ単にビーチクリーニング活動を行うだけでは物足りないと感じている。 本イベントは、そういったビーチクリーニングなどの既存の活動とは<u>別の角度</u>から海洋ゴミ問題に触れる機会となる。 展示やワークショップを通じて、楽しみながら海洋ゴミ問題に触れることで、海洋ゴミ問題を身近に感じてもらい、まずは問題を知り、参加者が日常生活の中で、少しでも分別やリサイクルを意識するきっかけを創出できると考える。
実現性	※資金やスケジュール、法令順守、関係者との調整に問題がなく、予算や効果が適正であるか。 ・イベント運営、デザイン等も個人で行うため、外部への委託は不要である。 ・ポスターやチラシの作成内容自体はまとめ済み ・ワークショップの材料となる海洋ゴミに関して、十分確保済み。 ・会場候補地は、見込みアリ
発展性	※事業の波及効果が見込まれ、意欲をもって主体的かつ継続的な活動ができ、資金確保への取り組みも十分か。 備品がそろえば、資金面で必要となるのは会場費が主となるため、ワークショップにて参加費をいただければ、継続開催のための資金を確保できると考える。 沼津市内にて活動しているビーチクリーニング活動団体の方々に協力を依頼し、ただのビーチクリーニングでは終わらない、一歩進んだビーチクリーニングイベントの開催（拾って終わりではなく、拾ったものでモノづくりを行うなど）や、ビーチクリーニング活動の紹介・活動報告の場作りなどにもつなげていきたい。 また、活動実績を積み上げ信頼していただけるようになれば、小中学校など教育機関へ出張授業・出張イベントなどにも繋げていきたい。

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載してください（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

- ・イベントの継続開催。
- ・沼津市内のビーチクリーニング活動と連携し、ただ拾って終わりではない一歩進んだビーチクリーニングイベントの開催
- ・市内の店舗にて簡単な常設展示
- ・小中学校など教育機関への出張授業・出張イベントの開催

海洋ゴミ問題対策は、個人や組織がバラバラに行っていても効果が薄い。

みんなで連携して、そして行動を積み重ねていくことが重要である。

自治体の施策、ボランティア団体の清掃活動、企業の商品開発、水族館での企画展など、海洋ゴミ対策として様々な活動が行われているが、そういった個々の活動をつなぐための場、何か行動したいけど何をしたらいいかわからない、そんな方に手を差し伸べられる場、そういった環境作りを行っていきたい。

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載してください。